２０２１年（令和３年）　３月２６日　金曜日
デーリー東北　２面　掲載

VISITはちのへ女子部開発

琥珀糖スイーツお披露目

5月発売目指す　南部菱刺しモチーフ

八戸圏域版DMOし、25日にお披露目された。商品名は「南部菱刺し琥珀糖八戸きらり」に決定。独特の食感が特徴で、形状は伝統工芸の南部菱刺しをモチーフにしたひし形に仕上げた。八戸圏域の新たな土産品として、5月の販売開始を目指す。

琥珀糖の味は、アンズの八助梅、ニンジン、桑茶、八戸ワイン、リンゴ、黒ゴボウと黒豆の6種類で、いずれも青森県南地方の素材を使用。和菓子店「元祖鶴子まんじゅう萬榮堂」（八戸市）の松田智司代表と、「八戸菓子匠　港むら福」（同）の船場修代表が試行錯誤を重ねて製造した。

はちのへポケットのメンバーは〝大人女子〟の視点からアイデアを出し合い、外側はしゃりしゃり、中はみずみずしい食感に仕上げた。炭酸水やカクテルに入れて食べるのもお勧めという。1箱12粒入り（1種類2粒ずつ）で、価格は税込み1200円を想定。両和菓子店や同市のユートリーなどでの販売を予定する。

ユートリーで開かれた完成発表会で、VISITはちのへ物産振興課の木村聡課長は「大人女子向け新市場の創出につなげたい。コロナ禍の収束後、八戸圏域に来てもらえるきっかけになれば」とアピールした。

八戸学院大1年の小松由佳さん（19）は「若い人の口にも合う和のスイーツ。インスタ映えする見た目なので、SNS（会員制交流サイト）に載せてもらえればうれしい」と話した。

はちのへポケットは来年度以降も活動を継続し、女子視点による市場創出や事業者の課題解決に当たる。

（松原一茂）

琥珀糖スイーツの「南部菱刺し琥珀糖八戸きらり」＝25日、八戸市

デーリー東北新聞社提供